

吉備津伝

岡村 美弥子

序章 備中国分寺

奈良時代には、仏教は国家を守り、政治を安定させる力をもつと考えられていました。そのため、聖武天皇は、地方の国ごとに国分寺と国分尼寺をつくり、奈良には大仏をまつる東大寺を建てました。

(京都公立高等学校の教科書より)

こうした政治情勢や飢饉・疫病などの社会的不安のもと、仏教をあつく信仰した聖武天皇は、仏教の持つ鎮護国家の思想によって国家の安定をはかろうとし、741(天平13)年に国分寺建立の詔を出して、諸国に国分寺・国分尼寺をつくらせることにした。

(京都公立高等学校の教科書より)

中学生時代、国分寺・国分尼寺の存在を知る。京都育ちだったため実物を見た事がなかった。八月の終わりに、岡山の吉備津地方を巡る事になった。備中国分寺を初めて見る事ができた。吉備津は木々が多く、田畑が整っていて、草原が残り、緑溢れる美しい地域である。緑も深い色ではなく、肥沃な土地を感じさせられる。その中に寺の五重塔が勇姿を現す。現在の寺は江戸時代に建てられたそうだが、遠くからでも、古代を引き寄せる力を感じる。高校時代に戻り、中学時代に戻り、一気に周囲が奈良時代に戻った。それから感覚をゆつくり古墳時代に向けていく。建物が低い事もあって、古代人の気分になりきれれるかもしれない。

温泉旅行や食べ歩きと違い、史跡

温羅伝説

百濟から来た温羅と呼ばれる大男が、悪事の限りを働いていた。村人は大いに恐れて、朝廷に直訴。大和朝廷は吉備津彦命を遣わし退治することになった。吉備津彦命は吉備の中山に陣を敷く。温羅の立て籠もる鬼の城めがけて、弓に一度に二本の矢を番えて放った。一本は温羅の投げた岩と空中で衝突して落ちてしまう。が一本は温羅に命中した。鬼の城から流れる川は温羅の血を吸い、一面の浜を赤く染めた。温羅は雉に姿を変えて山中に隠れた。命は鷹となって追跡。温羅は鯉に変身して海に逃れようとした。命は鶴に化けて捕らえ退治した。

温羅の首は、吉備津神社のお釜殿の奥深く埋められた。ある夜、命の夢枕

で温羅が言った。「妻の阿曹媛に神饌を炊かしめよ。さすれば釜をうならせて吉凶を告げる」。これが鳴釜神事である。

新・温羅伝説

百濟から逃げてきた王子の温羅を、吉備の人々は暖かく迎えた。感激した温羅は、造船や製鉄技術を教え、立派な山城を築く。繁栄する吉備地方。しかし、倭の国を統一しようとしていた大和朝廷は、吉備津彦を遣わして、温羅を討つ事にした。以下ほぼ同じ

吉備津地方に伝わる温羅伝説は、『お伽噺桃太郎』の基になったと言われる。吉備津地方には物語の形跡が多く残り、巡って行くと古代を身近に思い起こす事ができる。桃太郎のモデルと言われる吉備津彦命を祀る吉備津彦神社から訪れた。

備前一宮で、県指定重要文化財。参道では備前焼の狛犬が迎えてくれる。駐車場に桃太郎の銅像が立っている。張りぼてにも見えるが…。随神門の辺りにはボランティアのガイドさんがいらつしゃって、観光地図を配られ、希望すれば説明もされる。私の

写真を撮って下さった。休息所に、古代米が干されていた。新年の神事に使われるそうだが、古代米の穂を初めて見た。まだ普通の穂と違いがわからない。階段を上がると吉備津彦命のお墓と言われる吉備の中山茶臼山古墳の林が見える。拝殿と、末社の温羅神社にもお参りした。

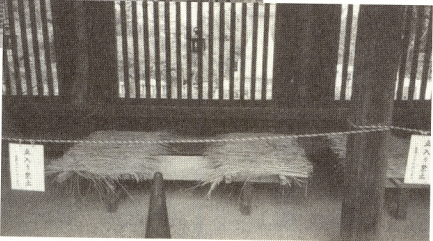
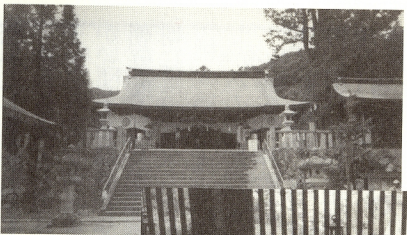
吉備津彦神社は、古代様式の庭園がある。県の十名勝に選定されている。神池に、鶴島・亀島神社が浮かび、予想外の美しさで非常に得した気分だった。しかし、なぜか目線の位置が定みにくい。九州の高千穂峡と同じような感した。私は162cmの身長で、やや高め程度だと思っただが、古代の女性はどれくらい背丈だったのだろうか。

次に温羅伝説の中心、吉備津神社に行く。備前一宮。同じく吉備津彦命が祀られている。入り口に吉備津彦命が戦いの前に矢を置いた矢置岩が在る。入り口の右端に犬養毅首相手書きの柱。駐車場に首相の銅像が建っている。遠い祖先である犬養健命(いぬかいたけののみこと)は吉備津彦命の随神だったと言う事だ。桃太郎

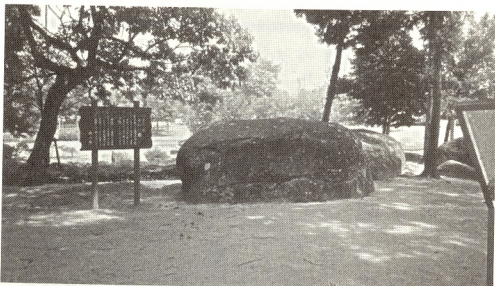
の、犬、猿、雉の犬にあたるらしい。

犬養首相は77歳で総理大臣に選ばれた。いたく感心したが、翌年暗殺されたので、平均寿命とは…と胸が詰まった。門を潜って左に入ると本来なら比翼入母屋造りの立派な本殿が建っている。足利義満が命じて、応永32年(1425)に落成された。入母屋

吉備津彦神社
随神門



古代米



矢喰石

遺跡はまたまた西門と角楼が復元されたばかりだが、遊歩道が整備されていて思っていたより歩きやすく、完成が楽しみだ。帰り道、マイクパスで年配の方々が十名ほど入って来られたし、本格的なカメラを三脚に設置した男性が屏風折れの石垣を撮影していた。近辺の方々は趣味に取り入れていられるようだ。鬼の岩屋まで走る。鬼の岩屋も温羅の住処と伝えられるのでおかし

吉備津地方は、学者はもちろん、郷土史を研究されている方々も多い。現在は遺跡の研究が進み、史実が解明されてきている。史実を基にした新・温羅伝説も作られ、広まりつつある。現代の文化は、多様な過去

さらに趣を深めるために、温羅は百済の王子だから、韓国の俳優・ペ・ヨンジュン氏のような外見だと思ふ事でもしよう。

吉備津の釜

吉備の国に住む伊沢正太郎は、吉備津神社の神主の娘 磯良と結婚する事になり、神意を伺うために鳴釜神事を行う。釜の鳴る音が大きければ吉、小さければ凶である。しかし、釜は全く鳴らなかつた。

結婚してすぐ男は他の女と恋仲になり、駆け落ちする。妻は優しく、舅姑に遣え、男の金の工面もしたにもかかわらず。妻は病氣となり、死んでしまふ。男は播磨に来て、女の親戚の家

を持つている。誰もがどこでも真剣に生きてきたに違いない。吉備津地方で伝説の主人公、温羅と吉備津彦命の二人だけではない。取り巻く人々や動物、自然がいまも感じられるのは、地元の方々が保存を緻密にされているからだ。地道で根気のいる作業だと思われるが、太い愛郷心を持たれているからできる事だ。温羅伝説を巡って、地方の文化を維持することの意味、また今まで以上に発展させるために努力する精神の強さを考えながら帰途についたのだ。



鯉喰神社
横は古代の山陽道

造りを重ねて一つの屋根を構成する例のない構造である。だが、吹き替え工事なので、2020年まで屋根を見る事ができない。大変残念だった。有名なお釜殿は慶長8年(1603)の再建で、側の風車のある庭園も美しかった。

吉備津神社の本殿外陣に温羅が『丑寅御崎(うしとらみさき)』として祀られている。また、本殿は丑寅の方向を向いている。だから吉備津神社自体が温羅を封じ祀ったものではないかという説がある。新・温羅伝説ができる所以なのだ。(牛の角、虎の毛皮 Ⅱ 鬼)

二つの神社は公共の交通機関で訪れる事ができる。しかし温羅伝説を巡るには、ここからは車が必至だ。または吉備津彦神社から貸し自転車車を国

分寺まで使う方法もある。タクシーで吉備津彦命が鯉に変身した温羅を捕えた所と言われる鯉喰神社に走った。桜の木の下の備前焼の狛犬が迎えてくれる。新築の随神門を潜ると、なぜか鐘があった。瓦は鯉の模様で、細かい感性が日本的でいいなと思った。神社の敷地は実に変な形をしていた。区画整理や土地売買で削られて変形したのかと思った。しかし、専門家の調査の結果、弥生式墳丘と判明したそう。素人の私でも、変と感ずる。案外このカンは大事なのかも。迷いながら矢喰天満宮に行く。途中足守川で白鷺を見かけた。吉備津彦命の矢と温羅の石がぶつかって落ちたと伝えられる場所で、温羅の石とされる五個の花崗岩が鎮座している。傍には命の矢が根付いたと言われる竹が植わっている。神社は、整った造りの公園になっているが、少し荒れていた。駐車禁止と張つてあるにもかかわらず不法駐車車が一杯で、運転手さんが困っていた。鳥居は一つが石の柱だけで、なぜだろうと疑問が残った。鐘の説明もほしい。電気気の現在地案内は壊れていた。伝説によると温

羅は巨人だったそうだが、その足で一踏みにしたようだった。疲れたので、岩に座つて『昔吉備団子』を食べる。羽二重餅のような柔らかい団子と勘違いしていたが、熊本朝鮮館と似た味だった。加藤清正が朝鮮に出兵する際兵糧食にした物だ。『桃太郎』で鬼退治に犬、猿、雉が欲しいのが納得できた。

矢喰宮の拝殿から鬼ノ城が見える。近くに温羅の血が流れた血吸川があり、昔は川底で血吸石も採れたらしい。現在は水量が減り天井川になっている。雑草が高く生い茂り、蛇もいるらしい。いや、絶対にいる！車の往来も結構激しく、早々に引き上げた。恩羅の血で赤く染まったという赤浜から、阿曹女の出身地阿曹村も近い。

40分のドライブで温羅が住んでいたと言われる鬼ノ城の駐車場に着いた。鬼ノ城ビジターセンターの自販機でお茶を買い、喉を潤す。鬼ノ城は古代の朝鮮式山城の遺跡である。センター内の説明ビデオが本当に興味深い。最後まで鑑賞してよく理解できたと思う。古代史が苦手な人でもわかりやすいのではないかな。

に居候したが、女は何かにとり憑かれ
たように錯乱して死ぬ。墓地で、男は
ある未亡人がいると聞き、話をしたい
と家を訪れる。未亡人は死んだ彼の妻
だった。逃げ帰った男は祈禱師に護符
を家に貼ってもらう。42日が過ぎると
大丈夫と言われる。最後の日、夜明け
を感じて戸を開けた。悲鳴が聞こえた
ので、隣家の男が外へ出るとまだ夜だ
った。夥しい血が戸口に流れていたが、
部屋は空で死体もなかった。人々は占
いは間違っていないかと囁いた。

上田秋成 雨月物語より

この話は小学生時代に読んだ。怖
くて、夜、お手洗いにいき辛かった。
当時我が家は古い日本家屋で、広い
庭の横の廊下を歩いてお手洗いがあ
ったため心臓に悪かった。妹も小学生の
時に読み、余りの怖さに感動して、
大学時代に吉備津神社を訪れている。
(縁結びの八重垣神社とセットという
のが笑える。)知人も小学生の時に読
んだそうだ。小学生は幽霊が怖い
だろう。社会人になってから読んでも
浮気をして殺される男に、女性も感
情移入しにくい。「フン、自業自得よ

『釜が鳴らなかつた』と言う部分だ。
幼かったから、自力ではできない事が
たくさんあり、無力を感じてシヨック
だったのだろう。小説は中国の伝奇小
説の翻案だが、舞台設定に吉備津を
選ばれたのは、「作者が鳴釜神事に強
い印象を持ったのでしよう」と神主様
作者も同じように思ったのだろうか。
緊張が解けて、帰り道は軽やかだ
った。鳴釜神事は一度だけしかしては
いけないとは決まっていなかった。結果が
意に沿わないものだったら、運命に謙
虚になるための忠告だと考え、しば
らく後に再び占ってもらってもいいと
気付いたからだった。

外伝・中国の梨

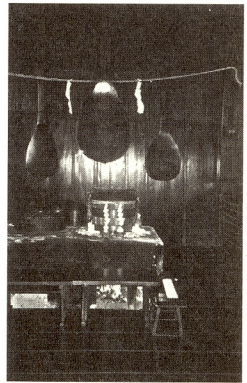
一人の百姓が市場で梨を売って
いた。みずばらしい格好の道士が来て一
つ恵んでくれと頼んだ。百姓は追ひ私
おうとした。見かねた近くの店の売り
子が一つ買って道士に与えた。道士は
礼を言って、梨を食べて、種を地面に
埋めた。種は発芽して見る見る育ち、
花を咲かせ、たくさんの実ができた。
道士はもいで人々に与えた。なくなる

つと密かに嘲笑するだろう。
吉備津神社に参拝したので、私も
鳴釜神事をする。祈禱料が程よく、
余り大それた事を占つても厚かまし
いと考へ、平凡な事柄をお願いした。
巫女さんに祈禱料を納め、神殿で祈
禱していただいた後、長い回廊を渡つ
てお釜殿に行く。部屋に入ると、神
官と阿曹女の二人がいらつしやうた。
阿曹女が釜に水を張つて湯を沸かし
祈願した神札を竈の前に祀り、神官
と向かい合つて座られる。神官が祝詞
を奏上されると、釜の上に乗せてあ
つた蒸籠の中で器に入れた玄米を振
られる。この間非常に暑い。壁が無く
開放的な回廊を歩いてきた反動で、
緊迫感を持つ。鬼の唸るような音が
鳴り響き、祝詞が終わる頃には音は
やむ。答えについて神官と阿曹女は
何も教えない。神様からお話を自
分で聞かすという意味だそう。音が
少し小さかつたような気がした。落
ち込む姿を見て、神官が「音が切れて
いませんから...。」と説明をされた。
慰めて下さつたようで嬉しかった。
神殿に入る時、若い女性二人が帰
るところだったし、私の後にも、夫婦

と幹を切り倒して去った。人々と一緒
に魔法を見ていた百姓が、自分の車
の方を振り向くと、そこには梨が一個も
なかつた。

道士と梨の木
蒲松齡 聊齋志異より

小さい頃、絵本で『なし仙人』を読
んだ記憶では、挿絵に丸い日本梨が
描かれていた。画家が間違つたのか、
それとも、梨は丸い物と思ひ込み、記
憶に定着してしまつたのだろうか。日
本で栽培されている梨は、日本梨、西
洋梨、中国梨の三つの品種群がある。
大学時代に『完訳・聊齋志異』を読ん
だ時には、既に中国梨の存在を知つて
いたが、西洋梨を小さくしたような
形だと思つた気がする。一度は食へて
みたいと願つていた私にとつて、大発
見があつた。岡山に行つて、中国北部
で多く栽培されている鴨梨(ヤーリ
ー)を見つけたからだ。瀬戸内の温暖
な気候によつて安定して栽培できる
事から、明治初年、岡山県西大寺
雄神地区に導入されたそう。鴨が
首をすくめているように見える事か
ら付けられた名で、形も記憶を少し



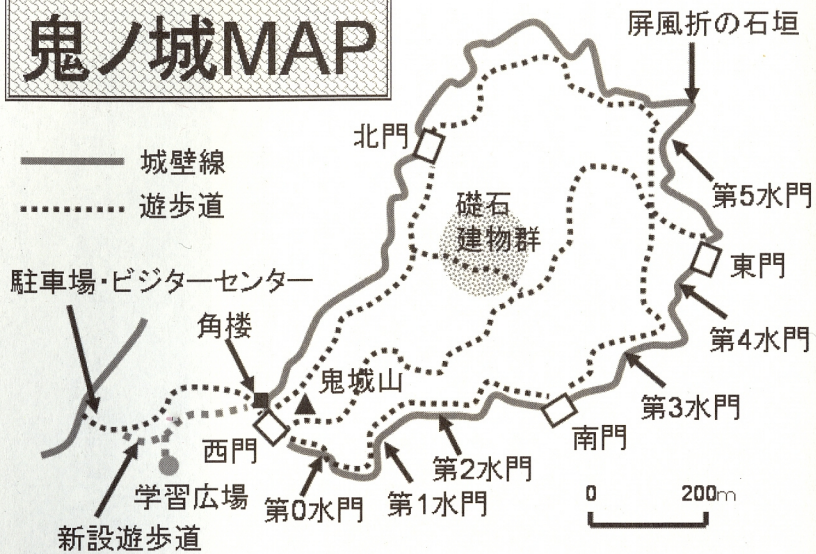
お釜殿

が待つていた。鳴釜神事は現在も人気
があり、最近では健康状態を聞かれる
事が一番多いそう。吉備津神社の
若き神主様が、二十年度二度、お釜が
鳴らない事がありました。もし、鳴ら
なかつたとしても、かえつて病院に検
査に行かれたり、対処されるので、い
いかもしれません」とおつしやつていた
が、そのとおりだと思つた。
鳴釜神事は、やはり、結婚の占いが
向いている気がする。自分自身なら、
心の持ちようがある。だが人は、たと
え恋人でも自分自身ではない。知ら
ない部分もあるし、心の行き違いも
あるだろう。いくら努力しても空回
りする事もある。自分でどうにもな
らない事を神様に聞くのは一つの方
法ではないだろうか。今思い返すと、
幽霊は怖かつたが、一番怖かつたのは

裏切つて新鮮だった。
季節ではなかつたので、しばらく後、
インターネットで取り寄せた。非常に
香り高く、部屋に置いておくとも甘酢
っぱい芳醇な香りに包まれる。ハンカ
チを被せたら香りが移るかと期待し
たが、残念ながら酸っぱいだけで香水
代わりにはならなかつた。300g程
度で純白の果肉。果汁が多く、歯応
えはさくさくとしてさつぱりした味
がする。日本の梨が優秀な会社員と
したら、ラ・フランスはグラマラスなマ
ダム、ヤーリーは謎めいた美少年とい
うところか。韓国風の冷麺やキムチ
にもヤーリーを使えばより本場の味
に近くなるのでは。

聊齋志異には、仙人の食へる桃の記
述もあつた。北京に出張した時、独特
なひしゃげた形の『蟠桃』だと教えて
もらった。岡山は桃の大産地。蟠桃も
栽培していただけはないものかと秘かに
期待している。
旅行をしようと、思いがけない発見が
ある。それによつて新たな連想が膨ら
む。だから、旅から帰つてくると、思い
出をゆつくり反芻する間もなく、また
旅に出掛けたくなつてしまふのだ。

鬼ノ城MAP



DATA

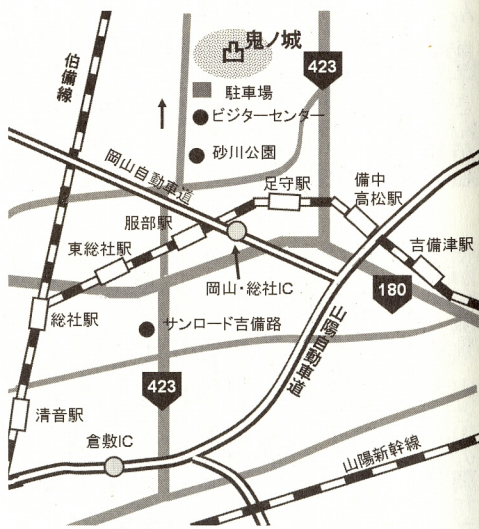
アクセス

- ・JR吉備線服部駅から徒歩約5km
- ・JR伯備線総社駅から車で約20分
- ・国道180号国分寺口から北へ約6km
- ・岡山自動車道岡山・総社ICから約8km

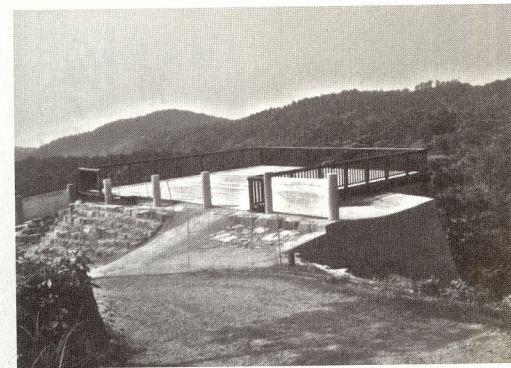
問合せ・情報検索

- ・総社市商工観光課
TEL 0866-92-8277
URL <http://www.city.soja.okayama.jp/kanko/kankochi/kinjo.jp>
- ・岡山県古代吉備文化財センター
TEL 086-293-3211
FAX 086-293-0142
URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kinjougou-top.html>

アクセスMAP



鬼ノ城遊歩道から復元された西門を望む



鬼ノ城 角楼展望台

へ主なポイント
 駐車場前にビジターセンターがあり、その前の遊歩道をたどる。
角楼 西門へ続く城壁の大きな屈折点に築かれ、城壁の死角をなくするための機能を持ち、西門の防御を高めるために築かれたと考えられる。
西門 発掘データを元に、門の床から棟まで高さ約十三メートル、城

壁の基礎から十五メートルあつて、内部は三階建て、堂々とした櫓門を見せる。
城壁 版築工法を用いて築かれた幅七メートル、高さ六メートル、壁面の復元には、古代の版築工法を参考にして。版築工法とは、城壁の前面に支柱を等間隔に立てる。支柱の間に板を積み上げて固定して型枠を形成、その内部に土を入れ

て固める。
水門 谷部に六カ所の水門が設けられている。城内には溜井(水くみ場)があるので、水門は水を取り入れるというより排水の機能と考えられる。
鉢巻き状の径路 すり鉢を伏せたような山の形をした頂上を、一周径路が鉢巻状に辿っていて、一周約三キロ。西門↓南門↓東門↓屏風折の石垣↓北門↓角楼と続く。中央部には礎石建物群跡があつて、食料貯蔵庫、のろし場跡などがある。
南門 十二本の角柱で構成され、正面二間、奥行一間の城門で、中央の一部が石葺きの通路になっている。
東門 正面一間、奥行二間の六本の丸柱で構成されている。壁面の一部は石垣になっている。尾根筋近くに位置している。
北門 鬼ノ城の背面(北側)に位置し、裏門になっている。間口一間、奥行三面の八本柱で構成されている。門礎は角柱を使用しているが、他の柱はすべて丸柱で、床面の石敷中央には、石組みの排水溝が造られている。